

2023年11月22日

厚生労働大臣

武見敬三様

NPO法人高齢社会をよくする女性の会
理事長 樋口恵子
(公印略)
運営委員一同

要 望 書

介護保険サービスの利用料は、2015年8月に2割負担が導入され、2018年8月には3割負担も導入されました。いま社会保障審議会介護保険部会では、この2割負担対象者の範囲を拡大すべく、審議が行われています。しかし、現在、食費をはじめ様々な生活必需品、また電気代やガソリン代など、すべての生活関連費用が値上がりし、人々の暮らしを追い詰めています。

こうした社会状況の中で、2割負担の対象者とされた高齢者が介護保険サービスの利用控えをしてしまうことは容易に想像ができます。そして、それが介護度の重度化を招くことは明らかです。また、これから介護保険サービスを利用することになる人たちは、利用料が2倍になるかもしれないという現実には大きな不安を感じているはずです。

本会として調査を行った結果、「上位何割という杓子定規な考え方ではなく、もっと現状の高齢者の生活実態を調査した上で、慎重に線引きする必要がある」ことを訴えてきましたが、改めて以下の内容について要望いたします。

1. 性急な介護保険の利用者負担引き上げに反対します

現在、介護保険サービスの2割負担者が利用しているサービスの実態を調査するとともに、物価高騰が続く状況で高齢者の生活実態がどう変化しているのかを詳しく調査した上で、慎重な判断を行う必要があると考えます。

2. 要介護1・2の訪問介護・通所介護を市町村の総合事業へ移行することに反対します

認知症と診断される人たちが多く含まれている要介護1・2は、「軽度者」というより重度にならないための配慮をとくに必要とする人たちです。この先の重度化を防ぐためにも、専門的な知識やスキルを持った介護専門職によるケアが必要であり、現状における総合事業の対象とすることは難しいと考えます。

3. ケアプランの有料化に反対します

ケアプランは、多様なサービス提供主体が総合的かつ効率的に提供するセーフティネットとして、すべての利用者が公平に過不足なく支援を受けられる環境が維持されなければならず、現行の10割給付を継続すべきと考えます。

4. 介護職員の待遇を改善し、質の高いケアに専念できる環境を確保してください

介護職の待遇改善が図られてきましたが、現在でも全産業平均賃金と比較して4万円以上の差があるという報告があります。介護職をめざす人が減り、ケアの分野から離れて他業種へ移る人も増えている現状で、とくに訪問介護事業の人材不足は深刻です。こうした状況を一刻も早く改善するためには、さらなる処遇改善が必須です。

いまや「人生100年時代」がキーワードになっておりますが、あらゆる国民にとって人生100年という新時代は初体験です。中年期を迎えた世代に、新時代に関する基本的な知識や体験を学べる場、いわば「第2の義務教育」とでも呼ぶべき学習機会を設けてほしいと思います。

厚労省が主導して、文科省、内閣府などと連携して政策をすすめることを希望します。

(以上)

附)

NPO法人高齢社会をよくする女性の会 運営委員名簿

◎理事長 ○副理事長 (50音順)

伊垢離利子 (緑区老人会監事)	石毛鉄子 (元衆議院議員)
石田路子 (名古屋学芸大学客員教授)	石橋鉄子 (NPO法人リブ&リブ代表理事)
伊藤恭子 (地域福祉活動家)	稲葉敬子 (介護専門教員)
井上由美子 (エッセイスト)	○沖藤典子 (ノンフィクション作家)
鬼塚信子 (CERTIFIED FINANCIAL PLANNER (CFP))	木村民子 (文筆家)
河野澄子 (千尋会幹事)	佐藤千里 (精神保健福祉士)
白井千賀子 (社会福祉士)	○袖井孝子 (お茶の水女子大学名誉教授)
高見澤たか子 (ノンフィクション作家)	玉木康平 (さわやか福祉財団会員)
甘楽美登利 (写真家)	並木きょう子 (フリーライター)
野中文江 (編集者)	林 千根 (翻訳業)
◎樋口恵子 (東京家政大学名誉教授)	
久留牧子 (国際保健研究者)	昼間洋子 (家庭科教員)
堀口雅子 (産婦人科医)	松田敏子 (ちば菜の花会世話人代表)
宮崎冴子 (教育学者)	柳原智子 (会社役員)
渡辺敏恵 (自分らしい生き死にを考える会代表)	

NPO 法人高齢社会をよくする女性の会

事務局 〒160-0022

新宿区新宿2-9-1 第31宮庭マンション802

TEL 03-3356-3564(月・水・金)

FAX 03-3355-6427

Email wabas@eaqle.ocn.ne.jp